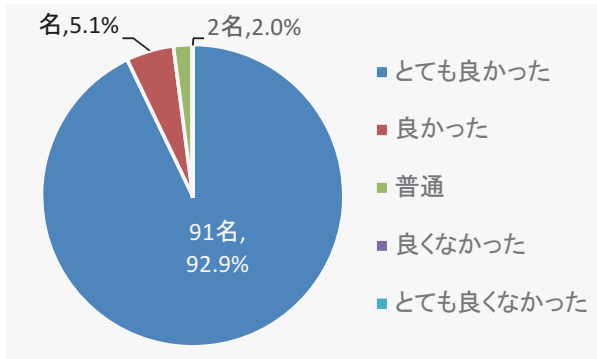


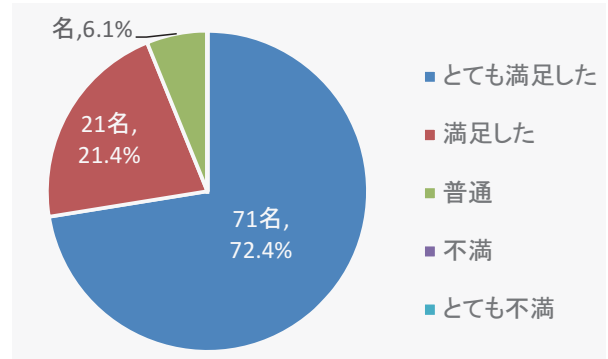
平成26年度 へき地校体験実習 事後アンケート (平成27年12月15日現在)

実施者：北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門
 実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配布
 実施期間：平成26年9月～11月
 対象者：98名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期〕履修生）
 回答者：98名（回答率100%）

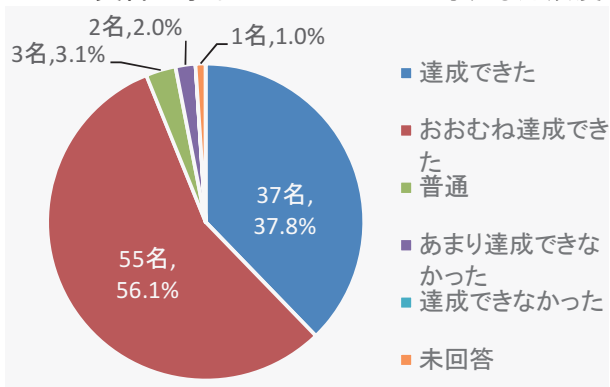
1. 実習に参加してよかったか



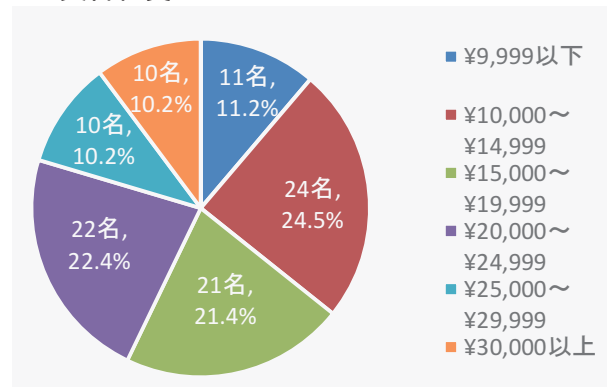
2. 実習の満足度は



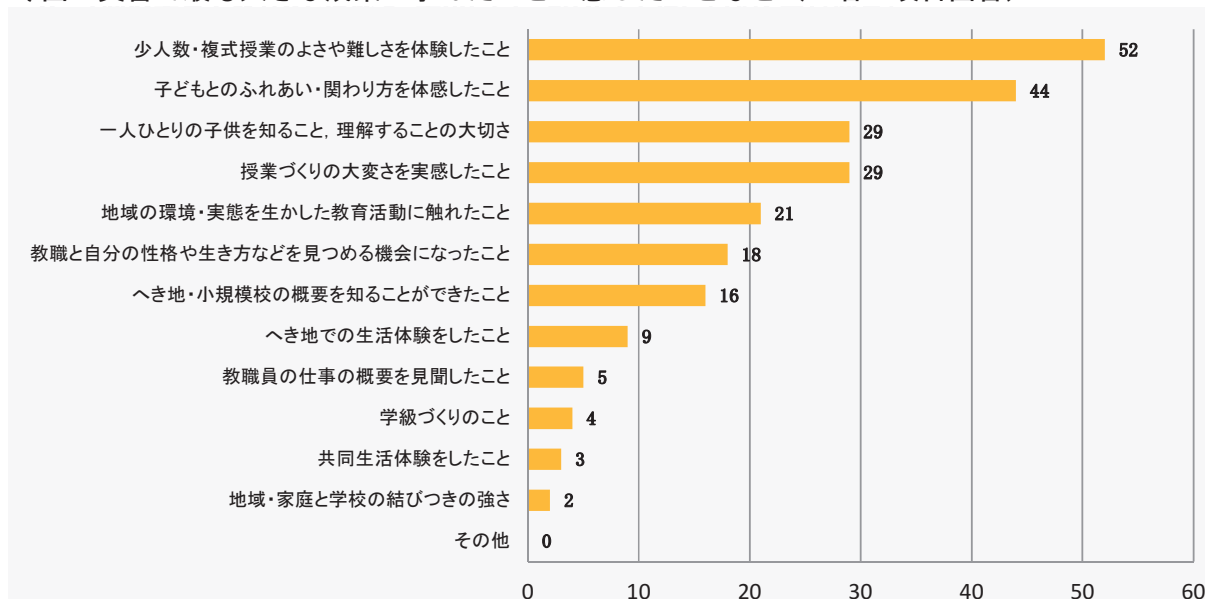
3. この実習で学びたかったことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど（1名2項目回答）



※ 4名が未回答, 39名が3項目回答, 1名が4項目回答, 1名が5項目回答している

11. 実習を終えた感想

- ・まず第一に、この実習に参加できて本当に良かった！実習校で働きたいと思えるほど、本当に濃い楽しい毎日で、大変なこともあったけど充実感がすごくある。3年生の主免の勉強というか、予習にもなったし、2年生のうちから実習に参加できたことで、意識がすごく高まった。これからやりたいこと、今の自分に足りないことがすごく見えた。また実習校に行きたい。
- ・あつという間に実習期間が過ぎてしまい、毎日本当に多くのことを子どもたちからも先生方からも学ぶことができた。研究授業をするにあたって先生方が親身になって相談に乗ってくれたり、人の温かみを感じ、人に支えられた1週間となった。改めて教師になりたいと感じるきっかけになったし、人に教えることは難しいと感じた分、やりがいがある素晴らしい職業であると感じた。へき地実習に参加できて、心から良かったと思え、また行きたいと思った。
- ・へき地実習を通して、教師と子ども・保護者・地域との関わりを改めて考え直すことができました。特に、子どもは学校の中心であり、子ども一人ひとりを理解することがとても大切なのだと実感しました。教壇実習もさせて頂いて、その前の指導案作りから様々なアドバイスを頂き、すごく勉強になったとともに、貴重な体験をさせて頂きました。
- ・小規模校ならではの地域の温かさを強く感じました。先生方、地域の方々、児童達も快く私達を迎え入れてくれました。その中で小規模校ならではの難しさや工夫を学ぶことができて一週間幸せだったと思います。もう一度行きたいとさえ思いました。
- ・実習を終えて、とてもいい経験をしたというのが一番の実感です。初めて複式授業を観察し、難しさを実感することができました。また、いろいろな学年の授業も観察することができ、いい経験になったと思います。また、地域との交流や、自身も農作業体験をすることができたことなど、地域とのつながり、家庭とのつながりを見ることができ、とてもいい実習にすることができたと思います。
- ・5日間はあつという間だった。待ってるだけだとあつという間に終わるので、自分からたくさん学びとろうと意識した。自分の教育観に大きな影響を与えてくれたと思う。
- ・はじめは不安と緊張でいっぱいだったが、教員の方々の優しさや、生徒の良さに助けられ、楽しく、学びも深い5日間となった。今回は学校内環境も生徒の質も素晴らしい所で活動を行わせていただき、生徒指導を行うといった機会もほとんどなく、とてもやりやすい実習であったが、その分他の学校ではこのようなやり方では通用しないであろう、ということも強く感じられた。
- ・講義で学んでいた学校、教育についての知識を、今回の実習を通して、より具体的なものにできたのではないかと感じる。もちろん、週に一度あるフィールド実習も実際の現場で学習できる良い機会であるが、それ以上に子どもたちの生き生きとした姿や教師の指導等を深い部分まで観察、経験できたという点が本実習における良い点だったのではないと思う。
- ・小規模校のいいところをたくさん見ることができた。子どもも全員素直で、先生方の雰囲気も非常によく、私たちのことを歓迎してくださり、本当に多くのことを学ばせていただいた。教壇実習を行ったことで、大変さを学んだのと同時にやりがいも感じる事ができた。
- ・やることがありすぎて毎日3時間しか寝なくて大変だったがみんなで乗りきった。生活面でも支えていただいて本当に助かった。教師になりたいと強く思えた。実際にこの環境に入らないとわからなかったこともあった。多くを学び、吸収できたと思う。
- ・最終日には授業実習もあり、単に子どもたちと遊んだり参観者として授業を見るだけではない緊張感も体験することができた。「楽しかった！」という気持ちだけでなく、これからの学校生活、来年の5週間実習につながる経験をさせてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・行く前は子どもたちと仲良くなれるかなど、不安もたくさんあったが、子どもたちも先生方もとても良い方ばかりで5日間は本当にあつという間だった。小学1年生の授業では、小学校の勉強の大切さを再確認し、4年生の授業では、ひらめきを大切に先生方の工夫に感動し、道徳では、授業の意図を見失わないことの大切さを学ぶことができた。
- ・非常に満足のいく実習だったように思う。地域と連携して行う学校祭は他では味わうことのできない達成感を得ることができ、また子どもたちも素直で明るく、コミュニケーションも取ることができたので、楽しく過ごすことができた。
- ・5日間は本当にあつという間でした。毎日が新鮮で濃いものでした。最初は緊張している様子の生徒も最終日にはたくさん話しかけてきてくれました。実習記録や授業観察記録を毎日書くことは大変でしたが、実習に参加することで幌加内中学校の素敵な生徒に出会うことができたので本当に良い経験になりました。
- ・へき地の環境で生活するということが思っていたよりも大変なことだったが、経験することができて本当によかった。

スクールバスにも乗せてもらって、登下校の大変さなども知ることができた。子どもと少しずつ仲良くなることができてきた時に終わってしまったので、もう少し早く仲良くなることができれば良かったと思う。

- ・ 本当にあつという間の1週間だったが、子どもたちのおかげで1週間がんばることができた。自分が行った実習校では、特別支援教育が充実しており、副免で特別支援についても勉強している自分にとっては、様々な教育法を目にすることができ、本当にためになった。教壇実習がなかったため、実際に授業をすることはなかったが、TTとして授業に参加することも多く、その点もとても勉強になった。
- ・ 実習に行く前と行った後では、教師という夢へのモチベーションが違う。行く前はほんやりとしか思っていなかったが、帰ってきてからは、「実習のときのどういった点から教師になりたいと思う」など具体的に思うことができるようになり、教師への夢がより強くなった。
- ・ 初めての教育実習は、正直不安でいっぱいだった。しかし、憧れである教師という職業を間近で見ていると、新しい発見もあり、私も頑張ろうという気持ちになった。教壇実習は、ガチガチで全然ダメであったが、担当の先生のサポートや児童の頑張りに支えられた。児童たちは、とても人なつっこく朝、中、昼休み、放課後と沢山の時間を遊び、共有することができた。また、一緒に行った4年生からも、実習の経験の話の聞いたり、アドバイスをもらったりと充実したものであった。
- ・ 本当楽しかったし、とても大きな経験になりました。実習先の担当教官や校長、教頭先生に指導していただいて自分も少しは成長したのではないかと思います。特に4回も授業させてもらえたのはラッキーだったと思います。是非2年後も行きたいです。
- ・ すごく勉強になりました。本実習の5週間では分からなかったこと、気付けなかったこと、新たな発見がいっぱいでした。2年生で行ったへき地実習、本実習は、どちらも低学年のクラスに入っていて、今回、5・6年生のクラスで高学年の授業をしたのは初めてでした。内容が複雑で、できる子とできない子の差がどうしてもひらいてしまうことが多く、どうやってわかりやすく説明するか、言葉づかいや、指導の内容など、本当に色々なことを考えて授業づくりをしました。それでも満足するような授業はひとつもできず悔しいですが、とてもいい経験になったと思いました。
- ・ とても楽しかったです。今までの単式ではなく複式の授業を行うことができてよかったです。指導教員の先生にも様々なことを教えて頂きました。子どもたちもとても素直でたくさん遊んでくれました。施設の方もよくしてくれて、生活しやすかったです。充実した5日間でした。
- ・ 「行って良かった」というのが本当に大きい。2年目のうちに実習に参加し、教壇実習までさせていただき、子どもたちとの関わり方から、学級経営の裏側等も見ることができた。今後の教師を目指す学生生活には必ず生きる。また、4年目のみなさんには、生活面から、授業づくりの面まで、本当に学ばせていただくことが多かった。4年目の方と一緒に実習に行けて良かったと思う。
- ・ 講義で終わってしまうのはもったいないなど、実習に行っても思いました。地域の温かさや子どもたちの元気いっぱいの明るさに圧倒されました。複式形態の授業を行うというのはとても貴重なことだと思うし、これから教員になる上で必ず生きる経験であったと思う。このような経験を逃すことなく、自分の糧にできる経験ができて、本当によかったと思います。
- ・ 実習に行く前に1週間でする経験を想像していたよりも非常にたくさん、貴重な体験ができたと感じる。教員を目指す身として、初めて学校で授業ができたこと、生徒と信頼関係を築けたこと、教職員の方々から応援、励ましなど温かい言葉を頂けたことなど、これからの人生で大切にしていきたい思い出になり、教職を目指す気持ちが強くなった。
- ・ 本当に充実した気持ちであり、実習が終わって残念な気持ちの方が強い。それだけ児童・教職員とのかかわりが深く、たった5日間でもかけがえのない時間を過ごすことができた。研究授業を無事終えることができてほっとしている反面、自分の力のなさを痛感したので、来年度へ向けて改善する努力をしたい。もう一度行きたくなるような実習であった。

12. 実習中、特に指導を受けたことはどのようなことでしたか

- ・ 授業案を練る時に、どのようなことに注意すべきか、一つの方法論として述べてくれた。子どもの実態等、指導案に関する基本となることを資料を用いて指導してくれた。黒板の流れもめあてとまとめが繋がるようにし、わかりやすいようにする。
- ・ 教師としての心得と、子どもの安全を守るための想像力である。よく聞き、よく理解することから教師ははじまると教えていただいた。また、学校には子どもにとって危険が多く隠れており、それを見つけるためには、子どもの行動を想像することが大切である。

- ・授業を観察する上で、指導を受けたことの一つは、できない子ばかりを見ていると、できる子のことがおそろしくなってしまうため、まんべんなく、全体に目を向けるということだった。TTで入った時に意識はしてみたが、どうしてもつきっきりになってしまい、全体を見るということは難しいことだと感じた。
- ・生徒と積極的にコミュニケーションをとること。へき地の利点だけでなく課題も見つけること。
- ・休み時間など時間をつくれるならば子ども達とのコミュニケーションをとった方がよいということ。
- ・授業中における、子ども達への指導の仕方が主だった。例えば、休み時間と授業時間の子ども達への接し方の違いだったり、授業を行う上での子どもの話の取り上げ方だったり、これからの大学における学びが大いに関わるものがほとんどであった。
- ・実習中はおそれずに何度もチャンレンジして、失敗したらそこで学ばばいいということである。おもいきりやらないと、学べるものも学べなくなってしまうということを特に指導していただいた。「子どもから学べ」ということもこの1週間で特に言われていて、何度でも子どもが教えてくれるというのは、本当に感じた。
- ・一度、文字のとめやはねについて指導いただいた。体験授業では、教材研究の大切さについて教えていただいた。
- ・実際の教員の目をどれだけ持って実習に臨めるか、ということ。校長先生には「黒板の側から授業を見なさい」という言葉を頂いた。これは、自分が教壇に立ったときに今の部分は、どういう発問をし、どのように板書するか、ということである。また、一般の先生方も、「明日から朝の会を運営できるように朝打ちを見なさい」と学生の目ではなく、教師としての目を持つようアドバイスを頂いた。
- ・言葉づかい。提出物のメ切。時間配分。時間を気にして動く。
- ・授業参観時の着眼点などです。担当の先生がどのようなことを考えてプリントを作り、授業を展開しているか、その意図を詳しく伺うことで、自分が何に気をつけて授業のメモを取ればよいかわかりました。
- ・朝の会、帰りの会、道徳の授業など、クラスに関するものをまかせていただいていたので、生徒指導についてなど、教えていただきました。また、国語の授業をつくるうえでの考え方などを教えていただきました。
- ・子どもに手を貸しすぎないこと。笑顔で明るくいること。
- ・1日1日自分の目標をつくり、それを達成するために行動すること。すぐに答えを教えるのではなく、自分で間違いに気づかせる。自分から積極的に話しかける。
- ・子どもたちに対する発問の仕方。否定で尋ねない。“英語は嫌いですか？”×“英語は好きですか？”○
- ・私は挨拶が小さいという指導を受けました。大きな声を出すということは、教師としてとても大切なことです。実習前から気をつけて生活していましたが、努力がまだまだ足りなかったようです。初日と比べると最終日には大分大きな声になったと思いますが、本実習までに意識して大きな声を出していきたいです。
- ・子どもたち一人ひとりに対する接し方。特に、授業中、机間指導をしているときの個々への対応の仕方、など。
- ・「子ども達と積極的に関わって」ということと「先生がどんなねらいを持って授業しているか考えて」ということ。子どもと積極的に関わらなければ、信頼関係というもの生まれなかった。また、新たな視点で授業を観察するとまた違った発見があり、教師という仕事のおもしろさを改めて感じる事が出来た。
- ・私は、小学校1年生を担当していたのだが、“言葉使い”に気をつけるようにアドバイスももらった。“注目して”“予想”してという言葉は難しすぎる。“よく見てね”“どうなるんだろう”などと変える必要がある。自分が思っているよりも優しい言葉を使う必要があるのだと思った。もう1つは、指示を細かく端的にすること。1つ1つを丁寧にわかりやすく指示することが大切だと感じた。
- ・複式の授業では、間接指導に入る時の指示を、特に明確にすべきであるということです。先生がいなくなった時に、今自分は何をすれば良いのかわからなくなってしまうと、子どもの集中力が低下したり、やる気もなくなってしまう。あとは、どこでわたるのか、計画を立て、時間配分を正確に考えることの大切さも指導を受けました。どちらも、今回の実習では課題が残るものとなってしまったのですが、とてもいい経験ができたと思います。
- ・教師として立つべき場に必要教養や指導力はもちろん、ピアノが弾ける、スキーができるなど、学校の中で生かすことができるような技術や能力を身につけていくことが大切になってくる。
- ・複式の授業の概要や注意すべき点。児童理解について。反射的に出る子どもへの指導の大切さ。
- ・生活に関しては、とにかく児童と積極的にかかわること。これは初回からみんなできており、お互いに親密な関係を築けた。授業に関しては小学校1年生であり、まだまだわからないことが多い中で、教師がすぐに答えをいうのではなく、児童が考えている間、黙って見守ることが大切だと何度か言われた。その場に応じた対応が求められることに気づかされた。
- ・教師としてのふるまい。言葉遣い。教師同士の呼び方、関わり方。
- ・指導をする際、子どもたちが黒板の前に出て発表する機会を設けるべきであるということの指導を受けた。子どもたちにとって、黒板の前に出て、発表することは嬉しいことであるそうだ。黒板前のステージで説明して、正解して、

ほめられる。子どもたちにとっては楽しくて、誇らしくなれることである。子どもたちの内発的動機を刺激でき、成功体験をさせてあげる、または失敗体験をして身につけさせることが必要であるということ学んだ。次回教壇に立つ際は、黒板の前で発表する機会を設けたい。

- ・子どもに合わせた対応をすること（普段の関わり方も学習指導も）当たり前のことだが、子どもの性格や発達段階は一人ひとり違って、教師はそれぞれの児童のことをしっかり理解して対応しなければならない。初日は子どもたちのことをわかっていない状態で関わったため、上手くコミュニケーションがとれなかった。しかし、担任の先生から子どもたちのことについてお話を聞かせていただいたから、子どもの性格に合わせて対応すると、子どもたちも少しずつ心を開いてくれた。
- ・実習生通信の発行の際に、読み手をしっかり意識して書くように言われました。あと、研究授業の後に全体で検討会をひらいていただいたので、授業に関して様々な助言等をいただきました。

13. 実習校で印象に残った活動、指導の先生の言葉や行動は何ですか

- ・「にじの約束」という担任教諭の授業内のワードが印象に残り、担任は印象に残る言葉を作っていていいと言った。その際にも注意は色々あるけれど、子どもに印象づけることの大切さを知った。
- ・他校との交流や保護者と教師との関わりがとても温かく、自分達に対しても話しかけてくれました。放課後の少年団活動は、子どもたちと多く関われる場で、子どもたちの特徴も見つけられる良い機会なのだと思います。
- ・初めての自己紹介の時や、最後の別れのあいさつの時、全校児童が集まり、歌を歌ってくれたりしたことが印象に残っています。少人数なこともあり、全校の児童全員と様々な関わり方ができ、とてもよかったと思っています。また、最後に先生に「教育の原点は複式にあり」という言葉をいただき、この言葉を大事にして、複式授業について注目しながら、今後の実習や、大学の講義に臨んでいきたいと思います。
- ・担当した学級の先生の行動は全て模範的なものでした。高学年が低学年の面倒をととても良く見ていたため、何か指導方法でもあるのか聞いた所、立場は人を変えるという言葉をおっしゃっていたのが印象的です。少年団の活動で児童と関わりが深くなったので印象に残っています。
- ・毎朝のトレーニングや休み時間は、全校児童で行うようになっていて、その他にも音楽や体育の授業も全校児童で行うというように、全校児童での活動がとても多いということが印象に残っている。先生方の言葉づかいも、児童の模範であるためとてもいいねだったし、命令ではなく「～しようね」とやさしい言葉づかいをしていた。先生方の行動はとてもすばやく、5分前行動はあたりまえだった。
- ・体育の授業における、雰囲気盛り上げるための声かけ（ナイスプレー、ドンマイ、頑張れ）
- ・昼休みに子どもたちと遊んだこと、研究授業関連、ホームルームでの中学生たちとの会話、食事、子どもは頑張った分だけ応えてくれるということ。
- ・なんといっても生まれて初めてやった授業。かなりの時間をかけて準備しました。また、それに際して指導の先生が夜遅くまで残ってサポートしてくださったことも印象に残っています。
- ・先生が子どもたちをどんどん引っぱりつつ、やらせるべきことはやらせるといった姿勢が特に印象に残った。あまり教師から与えてばかりではなく、子どもたちが何を考えるかを見守っていることも大事なことだと感じさせられた。
- ・初日の稲刈りは自分の経験としてとても良い物になった。マラソン大会では実習生も一緒に走ったり応援したりした。
- ・「教師は職人」＝長い年月をかけて自分を磨いていこうと思えた。
- ・生徒たちが自主的に朝から集まり、朝スポーツという活動をしていたこと。朝早くから多くの子どもたちが真剣に練習に取り組んでいる姿が印象的だった。また、先生方は朝読書の前や、休み時間、放課後の部活や自習の時間に、積極的に生徒と活動していらしかった。先生方と生徒との信頼関係は、このように、関わりをもっている時間が長いことから、しっかりと築けているのだろうと考えた。
- ・学校祭準備が印象に残っています。3年生が1・2年生をリードしようという意識をもって活動している姿は本当に立派でした。少人数でも、学校を引っばっていく力を十分に持っている生徒たちで、これからの成長が楽しみです。先生の言葉では、「学校はチームだ」という言葉が印象に残っています。教師どうしの協力があってこそ、学校は機能するのだと思いました。
- ・先生になるには「子どもが好きだ」という気持ちを忘れないこと。今はできなくても、いろんな先生のお話を聞いたり、指導法を参考にしたり、先生になってからもたくさん努力しなければならないことを改めて感じた。
- ・畑（学校の）がとても大きく、全学年がそれぞれいくつかの野菜を育てており、とても甘いとうもろこしの収穫やおいしい枝豆の収穫をしました。指導の先生が児童を叱る際、強い言葉を一切使わず、優しい言葉遣いだったことが印象に残っています。

- ・印象に残った言葉は、「複式の学校では、子ども自身が複式での勉強の仕方を学び、身に付けさせることが大切である」という校長先生のお言葉である。先生が見ていない時こそ自分たちで学びを進められることの力を身に付けさせることは大切であり、それは複式の学校のみならず通常の学校でも求められることだと感じた。
- ・児童理解について指導教諭が話してくれた内容で、「児童(子ども)と一緒にいたり、行動したりすることが一番の児童理解につながる。」という言葉がとても身にしみました。
- ・実習校伝統の太鼓。クラブ活動で児童たちが太鼓を叩いている姿を見て心から感動した。学芸会や地域行事で叩くらしいので、昼休みに練習している様子もあった。みんな立派で堂々としており、高学年から低学年へと伝統が引き継がれていくので、本当に素晴らしいものだと感じた。
- ・実習校では、スイカの収穫をしたり、プール学習に付添ったり、ポテトチップスを作ったりと様々な活動をした。その中でも印象に残った活動は、理科でプレパラートを作る活動である。この活動は5年生5人を私1人が引率して中庭や玄関前の花壇で行ったのだが、担当の先生に信用された上で子どもたちを任せてもらったのだと思うとうれしかった。その分、責任を持って子どもたちの安全に配慮し、充実した時間にしようと思った。
- ・子ども達と休み時間や放課後におにごっこや野球をしたのが、とても楽しかった。学校をずる休みしようとした児童がいた時に担任が言った、他の児童への声かけが印象に残っている。
- ・休み時間に学年関係なく鬼ごっこやドッジボールをしたこと。放課後に子どもが似顔絵や好きなキャラクターを書いてくれたこと。指導の先生には声かけがやさしく、子どものやる気をひき出しているとほめられたので、今後も意識していきたい。
- ・授業スタイルが型にはまっていなかったことである。集中力が日によって、時間によって異なってしまう子どもたちを相手に授業を行うので、子どもとおしゃべりをしながら、気付けば問題が解決してしまっているということが多くあった。
- ・「ピンチはチャンスですよ」という言葉と、「うまくいかなかったことはやめる」という言葉が印象に残った。言葉通り、新しいことにどんどんチャレンジしている姿は、子どもたちにとって良いものになると感じた。
- ・縦割り班での清掃が印象に残っている。実習校の児童のつながりの深さを最も感じる事ができたのが、この活動だ。上級生がリーダーシップをとり、児童一人ひとりが自分の仕事をこなしていた。指導の先生の言葉の中では、「けんかはあって当たり前」が印象に残っている。私はいままで、けんかはいけないことだと考えがちだった。しかし先生は、「子どもは一人ひとり違うのだから、対立があるのは当然のこと。自分の中に不満をためこんでしまうことの方が問題」と考えていた。この言葉には、はっとさせられた。
- ・私がある先生の指導に疑問を抱いてた際に「正解は1つじゃない。」というお言葉をかけていただきました。先生それぞれ価値観・教育観は違い、多様な考えのなかで自分なりの感性を養うべきと悟られ、心に響きました。